

であるが、そのうち最近5年間の5生率をみると25.6%と上昇しており、更にC-O症例を除くと33.3%と良好である。その他10年生存11例と早期食道癌15例についても症例を呈示し検討する。

5) 食道癌非手術例に対する人工食道留置について

宮下 薫・和田 寛治 (長岡赤十字病院)
田島 健三・神谷 岳太郎 (外科)
篠永 真弓・島影 尚弘

食道癌症例に対しては積極的に切除することを第1方針としているが、最近は高令者で重篤な合併症を有している症例がみうけられるようになった。われわれはこうした症例に対して人工食道の留置を行い、経口可能となり退院した2例を経験したので報告する。

症例は68才、76才の男性で第1例は失禁状態で、他人の介助を必要とし、食道造影にてImにラセン型の食道癌を認め、さらに内視鏡検査で胃体中部に進行癌も認めた。第2例はEiEaにラセン型の食道癌と診断されたが、60~200分の不整脈を認め抗不整脈剤で反応せず、心エコーでも心機能低下を認めた。前者には胃亜全摘は施行したものの食道切除は行わず、後者も手術は過侵襲との判断で、透視下にて人工食道の留置を行った。操作による大きな合併症もなく、各々3カ月、4カ月経過し生存中である。人工食道留置の適応や方法に問題は残るが、経口摂取を可能にする最終手段として試みる安全な方法であると考えられる。

6) 粘膜下腫瘍様所見を呈した胃アニサキス症と推察された1症例

八木 実・藤巻 宏夫 (県立加茂病院)
吉川 恵次 (新潟大学救急部)
佐々木 亮 (新潟大学第一病理)

症例は39才の女性、食事習慣では生魚類を多く摂取する傾向があった。昭和62年1月上旬より心窩部痛あり、近医受診し内視鏡およびエコーにて胃体下部大彎側の粘膜下腫瘍、胆嚢結石症と診断され当科紹介入院となった。入院時一般検査では軽度の好酸球増多を認める他は特記すべき所見はなかった。当科にて、胃体下部腫瘍摘出、胆摘を施行し、前者の術後の組織学的検索にて虫体は証明されなかったが、粘膜下層に好酸性肉芽腫像を呈し、アニサキスによる肉芽腫が推察された。一般に胃アニサキス症は急性胃症状を呈することが多く、その虫体の脱落は考えにくいといわれている。本症例はその急性型より慢性緩和型への移行により内視鏡的に胃粘膜下腫瘍様所見を呈したものと考えられた。

7) 胃癌壁深達度診断における超音波検査の意義

村山 裕一・清水 春夫 (村上病院外科)

胃癌61例に対し、術前に超音波検査を行った。ルーチンの操作を行った後脱気水を300ml服用させ、主に座位にて検査を行った。脱気水を飲む前に腫瘤を確認したものは61例中18例(29.5%)であったのに対し、飲用後は41例(67.2%)に胃壁の変化を確認し得た。組織学的深達度別に胃壁の描出率を見ると、m:0/10(0%), sm:7/13(53.8%), pm:1/1(100%), ss:11/12(91.7%), se:18/21(85.7%), sei:4/4(100%)であり、早期癌の30.4%、進行癌の89.5%に胃壁の変化を認めることが出来た。局在別に見落とし率を見ると、A:4/24(16.7%), M:11/28(39.3%), C:5/9(55.6%)であったが、進行癌の見落としは、Mの1例とCの3例のみであった。また胃壁の層構造の観察が可能なことより、術前に胃癌の壁深達度を診断し、その進行度を把握することにより、胃癌の治療方針を決定する上で有用な方法であると思われた。

8) 胃切除に伴う膵酵素の変動

大谷 哲也・角原 昭文 (厚生連中央総合病院)
斎藤 聡郎・金沢 信三 (外科)
川瀬 忠

胃切除に伴う膵機能の変化を見るため、血中アミラーゼ、トリプシンインヒビター、エラスターゼ1を測定した。測定は術前、術後第1日目、2日目、3日目、5日目、7日目、14日目に行った。血中アミラーゼ値は術後第1日目より上昇を示す傾向にあったが、トリプシンインヒビター値は術後3日目、5日目にピークを示す傾向にあった。胃切除に伴う膵被膜はくり操作の有無、胃全摘に伴う膵合併切除等の際のこれらの値の変動について若干の文献的考察を加え報告する。

9) IIc 早期胃癌にみられた十二指腸

Benign Lymphoid Hyperplasia の1例

穂苅 市郎・白崎 功 (厚生連糸魚川病院)
野村 直樹・藤田 敏雄 (外科)
伊藤 博

症例は55才男性、約10年前より近医にて胃潰瘍の治療をうけていたが、62年1月20日定期検査として内視鏡を施行され、胃体部後壁の不整潰瘍と十二指腸球部の隆起性病変を指摘される。生検ではそれぞれgroup V, group IIと診断され、62年2月20日胃亜全摘術施行、ビルロートI法で再建した。PoHoN(-)So Stage I

であった。切除標本では、胃には二つの潰瘍瘢痕と後壁に IIc がみられ、十二指腸球部には 2.5×2cm の扁平隆起と脳回転様に腫大したヒダがみられた。病理組織診断では、胃の病変は IIc tub₁, m, n(-), lyo, Vo と診断され、十二指腸の病変では、粘膜から粘膜下にかけてリンパ組織の増生がみられ、辺縁が鮮明な胚中心をもち、浸潤細胞が単調でなく好酸球、形質細胞、組織球が混入しており、Benign Lymphoid Hyperplasia と診断された。

10) 乳頭部癌症例の検討

霜田 光義	・阿部 要一	(高山医科薬科) 大学第二外科
鈴木修一郎	・楠瀬 統一	
桐山 誠一	・唐木 芳昭	
田沢 賢次	・藤巻 雅夫	

当科及び関連施設で経験した乳頭部癌は19例で、肝転移を認めた1例を除く18例に臍頭十二指腸切除を行った。2例は非治癒切除で他の16例は治癒切除であった。切除後2年以上経過例は術後の胆管炎で失った1例を除くと13例で、2生率77% (10/13), 3生率70% (7/10), 5生率60% (3/5) で、1年以内死亡例は、Stage IV の非治癒切除例の2例であった。組織型では高分化型腺癌が90%以上と主体を占め、リンパ節転移陽性例は3例のみで、その肉眼型はすべて潰瘍形成をとともなうものであった。stage 決定因子は d (13例), panc (6例), n (2例) であったが、他病死例、合併症例を除くと n 因子が予後をよく反映すると考えられた。

11) Delayed primary operation を行い 摘出した Stage IV A 神経芽細胞腫の 1例

高野 邦夫	・岩崎 甫修	(山梨医科大学) 第二外科
梅北 信孝	・鈴木 明	
上野 明		
東田 耕輔	・林邊 英正	(同 小児科)
辻 敦敏		

症例は2歳の女兒。発熱と頭頂骨のたんこぶ様の腫大を主訴として当院小児科を受診してきた。来院時右上腹部に大きな腫瘤を触れ尿中 VMA 陽性より右副腎原発の神経芽細胞腫と診断した。精査により頭蓋骨、長幹骨、肝、骨髄、上縦隔等に転移を認め Stage IV A と判定した。直ちに腫瘍摘出は不可能と考えられたため、澤口班 A1 プロトコールを行ったところ転移巣の消失と原発巣の縮小傾向を認め、発症より1年後に原発巣を摘出した。術後4カ月した現在、良好に経過しておりプロトコールを継続投与している。

12) 出生前に診断のついた回腸軸捻転症の1例

桑山 哲治	・山本 睦生	(新潟市民病院) 第一外科
斎藤 英樹	・藍沢 修	
丸田 有吉	・若佐 理	

最近、出生前診断の進歩により、出生前の超音波検査で異常の認められる新生児手術症例が散見されるが、当院において、出生前の超音波検査で胎児腹腔内腸管の拡張を認められ、帝王切開術で、娩出された回腸軸捻転症の手術例を経験した。腸閉塞症(回腸軸捻転症)の発生の時期について、腸閉鎖症等起すには至っていなかったことから、胎生期の後期と推定される。術後、喉頭軟化症が認められ、授乳困難があり、発育障害が著明であるため今後の栄養管理が問題と思われる。

13) 当院における CBA の治療経験

新田 幸壽	(長岡赤十字病院) 小児外科
鳥越 克美	・須田 昌司 (同 小児科)
岩淵 眞	(新潟大学) 小児外科

先天性胆道閉鎖症は、肝門部空腸吻合の開発によりその治療成績は著しく向上したが、その成因については、未だ明かでない。最近私共は、病型 III, a₁, v の1例を経験しその肝外胆道系の病理所見を検討したので報告する。

症例は、満期正常分娩にて出生の男児。生後3日目より灰白便が始まり、新生児黄疸が遷延、生後2カ月目肝脾腫を指摘、紹介された。TB 9.7mg/dl (DB 8.3), LP-X 陽性、便 Schmidt 反応陰性。その他検査所見および経過より、CBA スコアは、9点以上となり CBA 確定と思われた。生後77日目に開腹し、III, a₁, v と診断、駿河 II 法を施行した。術後3カ月目、200ml/日の胆汁排泄があり、TB は 3.4 まで下降し順調である。

病理所見：肝外胆道系の肝門部の結合組織には多数の上皮性管腔構造物を認め、慢性急性の炎症所見を認めたが、総肝管に相当の三管合流部直前の索状物には線維性結合織の中に血管、神経を認めるのみで炎症の痕跡もなく胆道の aplasia と考えられる所見であった。

14) 総胆管嚢胞・bypass 症例の検討

内藤万砂文	・岩淵 眞	(新潟大学) 小児外科
内山 昌則		

総胆管嚢胞に対する手術術式としてバイパス術(嚢胞腸管吻合術)が以前は一般的であった。当院では昭和48年までの17例にこのバイパス術が行われているがその治療成績の検討を行った。嚢胞十二指腸吻合術が12例ある